

いわいしま通信

「アイランダー2022」にオンライン参加しました

國弘 秀人

全国の島々が集まる祭典「アイランダー2022」が、昨年11月に開催されました。2020年と2021年は、コロナ禍のために、オンライン交流イベントだけの開催でしたが、2022年はオンライン交流イベントと、東京・池袋サンシャインでのリアル交流イベントの両方での開催となりました。



イベント開催時の様子

祝島からは、オンラインのみの参加で、交流イベントとして11月13日（日）に「祝島オンライン観光ツアー」を開催しました。Web会議ツールZOOMを使っての約1時間のイベント。全国の参加者につながって、ぶっつけ本番の生放送をしているようなものなので、かなりドキドキしましたが、無事に実施出来てホッとしました。イベントでは、最初の40分間くらいで、事前に用意したパワーポイントのプレゼン資料を使って祝島の見どころを紹介し、その後、参加者からの質問に答えていきました。祝島の魅力をたっぷり伝えられたのではないかと思います。この交流イベントの様子は、下記のアイランダーのWebサイトで見る事ができますので、関心のある方は、ぜひご覧になってください。



「アイランダー2022」アーカイブ
<https://www.i-lander.com/2022/archive2022>

アイランダーのWebサイトで
ご覧いただけます

目次

アイランダー2022	1
祝島への来島自粛解除	1
祝島・記憶の玉手箱	2
会員リレーコラム	4
絵つき一覧覧会	5
ここにこ農園だより	5
祝島自由律俳句	6
島ねこグッズ	6
祝島の暮らし	7
千客万来	8
山田イサオ写真館	9
カムバック 祝島!	10
読書タイム	11
お知らせ&募集	12
編集後記	12

祝島への来島自粛解除(コロナ関連情報)

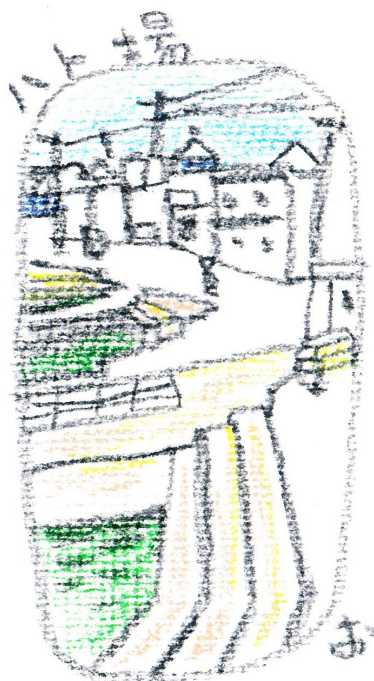
昨年11月1日より、観光客や釣り客など一般の方も含めて、来島自粛のお願いが解除されました。会員の皆様も、今年はぜひ祝島にお越しください。

ただし、来島される際には、事前検査（PCR検査や抗原検査）による陰性確認や、マスク着用などの基本的な感染対策への協力をよろしくお願ひします。

自治会よりお知らせ

10月26日の組長集會において、コロナ感染防止の一環で観光客・釣り客の来島について協議し、事前検査の推奨（陰性確認）、マスク着用の徹底等

11月1日より来島自粛控えの協力を解除することで決定しました。



「祝島物語」 画・大井しげる

<連載> 祝島・記憶の玉手箱(29)

～ 金万百貨店 ～

語り部:けんちゃん

島のお年寄りに、毎回違うテーマで昔の祝島の様子を話していただく「祝島・記憶の玉手箱」シリーズ。今回は、久しぶりに祝島に帰省された、けんちゃん(82歳)に、子どもの頃のいろいろな思い出話を聞かせていただきました。お話し好きで、話がかなり長くなりましたので、今回はその中から、実家のお店、「金万(かなまん)百貨店」についてのお話を紹介します。



お話し好きのけんちゃん、
話し出したら止まらない・・・

司会：久しぶりに島に帰られたそうですね。

けんちゃん：コロナ禍になってからずっと帰ってなかったから、久しぶりじゃねえ。

司会：今日は、昔のことをいろいろ教えてください。

けんちゃん：はあ、なんぼうでも聞いてください。

司会：けんちゃんの実家は今でもお店やっていますよね。子どもの頃はどんな感じだったか覚えてますか。

けんちゃん：子どもの頃は、ちょうど戦中戦後になるんですが、店は忙しかったですよ。戦前から配給制度ってあったんですよ。それを一括してうちが配給してたんです。

司会：どういう物が配給されたんですか？

けんちゃん：すべて国から持ってくるんです、品物を。たとえば、いろいろな日用品とか生活必需品ですよ。国から送ってきた物を全部、それに切符があってね。それで一軒一軒全部割り当てとったんです。それを、戦中戦後。うちの親が権利を取って。何故かって言うと、うちの父親がちょっと病気で、徴兵検

査に引っかかってね、結局祝島に残って、いろいろそういうことをやったから。それでうまく商売に持って行って。それが戦中から戦後ですよ。

司会：へえ、そうだったんですね。

けんちゃん：私が小学校2、3年生の頃は、もう朝5時頃から並んでましたよ、家の前に。その品物を早くもらおうとしたんでしょうねえ。それで6時なら6時に店を開けて・・・みんなその配給切符がないと買えないんですから。そういうのがずっと続きましたね。

司会：それが「金万百貨店」だったんですね。

けんちゃん：当時の店の話をまだしましょうか。正月になるとねえ、みんな着物で行くんですよ。初詣とかに。うちは反物も売ったから、いっぱい着物を店にぶら下げてましたよ。そして下駄ね。もう年がら年中、うちの親もじゃけど、兄貴ももう中学校卒業してるから下駄の・・・あはは。それと砂糖。こんな箱にねえ。みな砂糖だったんですよ、暮れのお歳暮はね。

司会：そうそう。昔はそうでしたねえ。

けんちゃん：もうこれはすごい売れましたね。朝から晩まで、砂糖と下駄。あはは。こりゃあ非常に記憶に残ってる。まあ私はまだ小さかったから、手伝うわけじゃないけど、眺めとただけですけどね。あの頃は皆、祝島じゃあ、お歳暮言うたら砂糖ですよ。砂糖が一番大事じゃったんです。当時は、量り売りでね、砂糖を量って、袋に入れて、きれいな箱に入れて包んで、それを皆さんに。これが一番の売り上げですよ。お酒より、こっちの方が忙しかったという気がしますよ。こりゃあ、よう覚えてます。うちの家は当時は何



金万和洋酒店(およそ20年前)

でもやっと思ったんですよ。

司会：店の場所は今と変わってないですね。

けんちゃん：ああ、ずっと今の場所ですよ。あそこがもう商品でいっぱい。それこそ日用品雑貨、たぶん私が居った間は、なんでもいっぱいあったですよ。それからだんだん人口は減るわ、近くにスーパーができて、もうパーになっちゃったけど。あの頃、昭和20年代から30年代までが全盛期だったですよ。

司会：金万（かなまん）百貨店の、「金万」っていう名前は？

けんちゃん：そりゃあ、金田万作（かなたまんさく）を縮めて「金万」ですよ。創業者、ようは私らの父親ですよ。親が金田万作です。それで自分で「金万、金万」言うてから、自分で勝手に「金万にしよう」言うて付けたんです。そういう人間でしたね。

司会：でも、いい名前ですよ。

けんちゃん：全国にも「金万（かなまん）」っていう名前は、いっぱいあるみたいですけど、あはは。縁起がいいからね。あはは。

司会：そうですね。

けんちゃん：そういえば、昭和25年くらいまでは、たとえばね、秋祭もやってるし、若い人がいっぱいいるから、上関から室津から祝島、それから八島、町内持ち回りでね、船で行って、体育大会をやったりしましたね。かけっこやら、走り幅跳びやら、いろいろなをやりましたね。

司会：青年団の運動会みたいなのですよね。

けんちゃん：そうそう。それがね、まだ昭和25～26年くらいまでは続いてたと思いますよ。

司会：写真で見たことはありますよ。応援団長さんがすごいおもしろい恰好をしてましたよね。

けんちゃん：そうです、そうです。すごい応援団長さんですよ。それがおもしろかった。みんなねえ、祝島とか、蒲井とか、四代とかね、それぞれで応援合戦をするんですよ。それも一つの点数ですよ。そりゃあもう、子どもにとっちゃあ楽しいもんでしたよ。

司会：団長は高下駄を履いて、天狗みたいな恰好してましたよね。

けんちゃん：そうそう。そしてねえ、その頃はうちも、飴玉を売ったんですよ。それで、そういう行



昭和20年代 青年団陸上大会の選手と応援団長

事の時には、今の天津さんの所に出店みたいなのを、こういう風に出して陳列してから、「お前やってくれえ」言うてから、私が売り子をやらされたんですよ。もう、恥ずかしいのにねえ。そいで、こんなピンがあるんですよ。それを一つ置いて、お金を入れるんですよ。そしたら、子どもがよけえ買いに来るから、もう最後は訳わからなくて、「はあ持って行け！」みたいな感じでねえ。採算が合ったかどうかわからんけどね。子どもらがいっぱい並ぶからねえ、私は「はあお金はどうでもいいや！」みたいな感じになってねえ。

司会：あはは。いくつくらいの時の話ですか？

けんちゃん：小学校4～5年くらいの時じゃねえ。もう、恥ずかしかったけど、それをやらされた思い出がありますねえ。

司会：その頃、飴玉は1個いくらだったんですか？

けんちゃん：飴玉は1個、1円か2円ですよ。キャラメルが10円ですから、1箱がね。カバヤとか森永とか、あるでしょ。あれは10円でした。

司会：さすがですねえ。昔の物の値段をお年寄りに聞いても、結構あやふやなんですよ。

けんちゃん：うちは店だからわかりますよ。たとえば、普通にあんパンが5円でした。あの頃、ビールは110円～120円。竹輪は10円とかね、天ぷらもね、上関の原田から運んでくるでしょう、あれも10円。

司会：ほんとはよく覚えてらっしゃいますねえ。記憶が確かなので助かります。金万百貨店のお話、とても面白かったです。ありがとうございました。他にもまだ思い出話があるようですので、それは次回のお楽しみということにしましょう。

このコーナーは「祝島ネット21」の会員の皆さんに、自己紹介を兼ねて簡単なコラムを書いていただくコーナーです。今回は、祝島出身者以外で初めて祝島ネット21の会員になられた、渡辺竜生さんです。



島内で自分の姿が写っている
数少ない写真(2014年)

2度目があるとは思ってもいなかった会員リレーコラムが回ってきて、目も回っている東京都在住の渡辺竜生(58歳)と申します。勤め先は魚の水槽を組立・設置したり管理を行っている会社ですが、私はもう現場に出ることはほとんどなく、社内で書類にまみれた毎日を送っています。

生まれと育ちは山口県山口市です。祝島は同じ県内とはいえ、公共交通機関で4時間の距離(自家用車を使っても1時間縮められるかどうか…)にある遠い遠い場所で、半世紀前の日常生活の中では話題になることはまずありませんでした。そんな祝島のことを初めて認識したのは、小学校の卒業記念として配布された「山口のむかし話(山口県小学校教育研究会国語部編)」に載っていた「太郎万・次郎万」の話を讀んだ



島のお年寄りとの会話が楽しい道こしらえ(2016年)

時かと思えます。もしかしたらニュースで見た神舞がきっかけだったかもしれませんが、そのあたりの前後関係の記憶は曖昧です。

祝島ネット21に入会したのは、前世紀の末頃「祝島ホームページ」の掲示板に書き込みをして、國弘秀人さんと知り合いになったことがきっかけです。その後、秀人さんから「島おこしグループを作るから入って」と言われ、まだ祝島に一度も行ったことがないのにいいのだろうか?と疑問に思いながらもとりあえず「はい」と返事をしたら会員登録されました(笑)。祝島在住・出身でもなく、また親戚がいるわけでもないのに私の会員番号が妙に若いにはそんな事情があります。

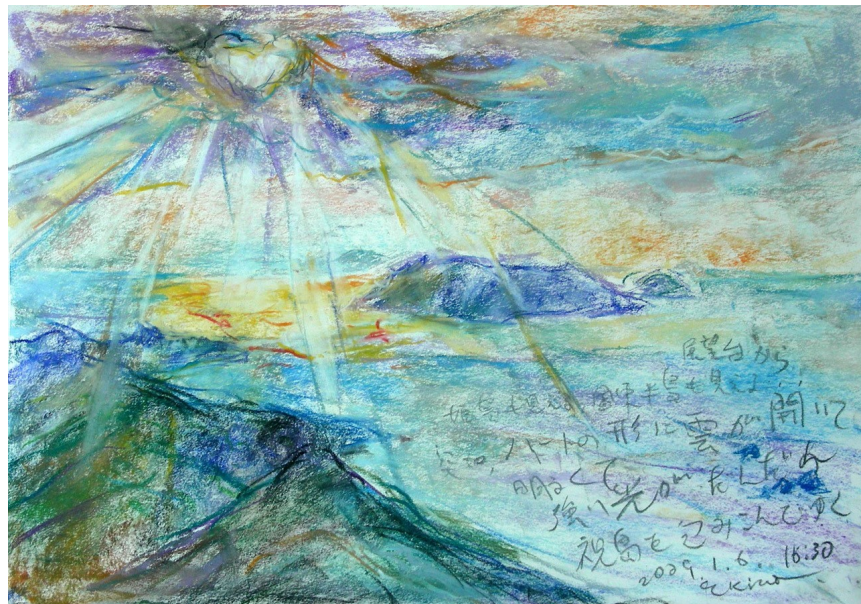
それからさらに時間は流れて2013年、私もようやく祝島に初上陸を果たしました。その後はほぼ毎年のように往来して、島の名所を巡ったり、釣りをしたり、あるいは長靴と鎌持参で島の行事「道こしらえ(島民総出で行う道の補修・草刈り作業)」に参加するようにもなりました。また、毎年秋、東京で開催されていた離島のイベント「アイランダー」の祝島ブースでは怪しい説明員を務めさせていただいたり…と多少は会員らしい活動もしていたことが、コロナ禍が続く今となっては懐かしく思い出されます。この厳しい状況がいつまで続くのか見当が付きませんが、また以前のように祝島へ行ってのんびりとした時間を過ごせる日が戻って来ることを願っています(あ、くにひろ農園の作業が山ほどあるからのんびりはさせてもらえないか…)。

というわけで、今後ともどうぞよろしく願いいたします。



アイランダーのスタッフ記念写真(2014年)

姫島も見える、国東半島も見える。
突如、ハートの形に雲が開いて明るくて強い光が
だんだん祝島を包み込んでゆく・・・。



「上盛山展望台からの眺め 2009/1/6 16:30」 パステル画 約B3サイズ

にこにこ農園だより(10)

國弘 秀人

イノシシ被害に遭いにくい農作物栽培実験の第2弾として、カタアの「にこにこ農園」で育てたトウガラシ。

雑草に負けて数が減ってしまいましたが、イノシシの被害は受けずに無事に収穫することができました。一味唐辛子などの加工品を作って販売できたらいいなあ・・・と思っています。



なんとか収穫できたトウガラシ

さて、イノシシ対策の第3弾は何を育てようかと思案中です。いい農作物があったら、ぜひ教えてください。

一方、三浦湾の「にこにこ農園2」は、別の意味でイノシシ被害に遭いました。正月明けに、草刈りに行ったら、イノシシが段々畑の石垣をあちこち崩してしまい、畑へ登る石段にも石をたくさん落としていたのです。そこに雨で流れた土砂が溜まって通りが悪くなっていましたので、土を除け、小さい石は邪魔にならない所まで手で運び、持ち上げることで

きないような大きな石は、テコ（木の棒）を使って少しずつ動かして、なんとか通れるようにしました。作業中、平さんの棚田の石垣を積む話を思い出しながら、「なるほど、こうやってコツコツと動かしていったんだろうなあ・・・」と、その苦勞を少しだけ感じることができました。もちろん、平さんの石垣は、僕が今回動かした石の何十倍もの大きな石を積んでいるので、その苦勞は比較できないほど大変だったはず。それでも、平さんから聞いた話が、少し体感できたような気がします。

「にこにこ農園2」のすぐ下にある休憩所は、草刈りもほぼ終わり、三浦湾や小祝島を望む、気持ちのいい広場になっています。ピワ畑の草刈りはこれからポチポチやっ



支点に小さい石を入れて 大きな石をテコで動かす

祝島自由律俳句(10)

山口県防府市出身の俳人・種田山頭火。彼の作った俳句は、五七五の定型にも、季題にもとられない自由な表現が特徴の自由律俳句といわれています。このコーナーでは、読者の皆さんから「祝島」をテーマにした自由律俳句を投稿していただき、毎回その中から何句かを紹介させていただいております。

冬凧や赤い棧橋ネコが往く
練塀の漆喰白し十二月
虫たちのオアシス枇杷は花盛り
篠崎 幸恵

ご健在なり祝いの島に新造船
透き通るは仏の光か嗚呼イカ大観音
達塔華（浴野 達宏）



大根干す手にしみる西の風
寒の内井戸端賑わうまいらせの大根
拍子木に昔なつかし火の用心
國弘 秀人

冬の青空凜として我が双眸きらめく
ふわり舞う窓の雪見てこたつむり
風落ちて研ぎすまされたる三日月を見る
國弘 優子

読者の皆様からの投句をお待ちしております。テーマは「祝島」です。応募は、メールまたは郵送にて、応募作品／作品についてのコメント（あれば）／名前（ペンネーム可）を記入して事務局までお送りください。メールのあて先は haiku@iwaishima.jp です。

島ねこグッズを製作しました

國弘 秀人

祝島の島ねこたちが登場する、「島ねこ卓上カレンダー」と「島ねこのしおり」を製作しました。かわいい島ねこたちの表情をお楽しみください。

現在、民宿くにひろ、道の駅上関海峡、祝島ホームページ通販コーナーにて販売しています。島ねこファンの方は、ぜひお早めにお買い求めください。

（写真上）島ねこカレンダー：定価600円

（写真下）島ねこのしおり：定価200円



今の祝島での生活を紹介するシリーズ。第5回目は島の「ゴミ処理」についてです。

人が生活すれば様々なゴミが出てくるのは、都会でも島でも同じです。今回は祝島でのゴミの出し方について紹介します。

◎可燃ゴミ

私が子供の頃（50年くらい前）には、燃えるゴミは島内数か所にあったゴミ焼却場に各自で持って行って燃やしたりしていましたが、ダイオキシンの問題でゴミを燃やすことはできなくなり、今は本土と同じように、自治体（上関町）の指定のゴミ袋に入れて、ゴミ収集日の朝に指定された場所に出す、ということになっています。

可燃ゴミについては、現在は毎週1回、火曜日がゴミ収集日になっています。夏期（6月～9月）は、週2回の収集になり、金曜日にも収集されます。

収集日の朝8時までに指定された場所に出しておくと、自治会で雇用した作業員（島民です）が軽トラックで集めて回り、ゴミ運搬船で室津まで運び、クレーンでゴミ収集車に積み替えられて本土側のゴミ処理場に運ばれます。荒天で運搬船が出せないような時は、収集日が他の日に振り替えられることもあります。

◎生ゴミ

生ゴミは、可燃ゴミと一緒にゴミ袋に入れて収集日に出してもかまいませんが、野菜クズは豚のエサとして、随時、豚エサ置き場に出すこともできます。豚の世話をしている人が集めて、豚に食べさせます。

◎古紙

新聞紙、ダンボールなどの古紙は、月に2～3回、燃えるゴミの収集日に、一緒に回収されます。ひもで縛って、回収場所に出します。雨の時は回収が中止になることがあります。

◎ペットボトル

ペットボトルは公民館前に設置されている専用の収集力ゴに出します。随時出すことができます。ラベルとキャップは外して、ボトルの中をゆすぎ、踏みつぶしてから出します。

◎不燃物ゴミ
空き缶、空きビン、ガラス、陶器、乾電池などの不燃物については、港の近くに収集場があり、随時出す



不燃物の収集場

ことができます。品目ごとにケースが置いてありますので、自分で分別してケースに入れます。ある程度溜まったら、ゴミ運搬船に載せて本土に運びます。

◎金属ゴミ

金属ゴミは、自治会の係員に内容を確認してもらい、所定の料金を支払ってから、集落のはずれにある金属ゴミ置き場に出します。料金を支払った際に、確認シールをくれますので、そのシールをゴミの目立つところに貼って出します。以前は粗大ゴミとして出せましたが、現在は出来る限り金属部分だけにして出すように自治会から指導されています（そうしないと業者が引き取らないそうです）。置き場に溜まった金属ゴミは、毎年6月頃に業者が引き取りに来ます。

◎家電製品

家電リサイクルの対象品目（洗濯機、冷蔵庫、テレビ、エアコンなど）を捨てる場合は、郵便局でリサイクル券を購入し、漁協に運賃（3300円）を支払って、所定の場所に出しておきます。小型家電の収集日に、ゴミ運搬船で本土に運ばれます。

リサイクル対象品目以外の小型家電製品は、月に1回、収集日時が指定されます（現在は、毎月第1火曜日

の朝8時～9時）ので、その日時に、ゴミ運搬船まで持って出て、係員に渡します。



ゴミ運搬船に可燃ゴミを積み込む

※この記事の情報は2023年1月現在のものです。

11月中旬、くにひろストアの定休日を利用して、民宿の障子の張り替えをしました。今回は一階部分の障子を張り替えたので、全部で13枚。表の井戸端で水をかけて古い障子紙を剥がしていると、近所のおばちゃんがバイクで通かき、お店の前の看板を見て『本日休業』。えっと休んじゃあいけんよ」と、哮（たけ）って風のように通り過ぎました。「お店が休みの時でない

と、つづやいて、今度は「きれいになるねえ。今日は寒くないけえ、えいわあ」と歩きながら声を掛



古い障子紙を剥がして乾燥中

けてくれるおばちゃん。「そうなんよ、早めに済ませちょこう思うてねえ」とわたし。「最近では障子の張り替えも見んようになった」とか、「うちのも張り替えたらいんじゃが」とか、言いながら通るおばちゃんたちに「そうじゃねえ」と言葉を返しつつ、手を動かす一日でした。その翌週、「うちも障子を張り替えよう思うんじゃが、障子紙を買って来てくれんかね」と注文するおばちゃんが現れ・・・なんと、障子の張り替え作業も、お店の売り上げ貢献となったのです。「何が功を奏するか、わからんねえ」と笑う店主でした。

冬に限らずですが、お店のお客さんには、ずっと「こけんように、気をつけてねえ」「寒うなるけえ、風邪ひかんように」「コロナのワクチンの手続きはした？何回打った？」みたいに、ちょっとしたことをいろいろ声掛けしてきたので、「こたつから立ったら、布団に足を取られてこけかかって、ストーブを避けたら、柱に額をぶつけたんよ」とか、「玄関を出たところで、いにこんで（頭から突っ込んで）しもうた」と目の周りをパンダにしたりとか、自分から気軽に報告してくれるようになりました。あそこが痛い、ここが痛い、と話してくれるけれど、何をしてあげられるわけでもなくとも、「調子が悪いときには電話してきんさいよ」と民宿と店の兼用携帯番号を紙に大きく書い

て渡すことも増えました。一人暮らしの心細さが少しでも安心につながると思い、同時に子どもさんたちの連絡先も聞いたりもするようになりました。夏も、暑いのになかなかエアコンをつけられない人が多くて、熱中症になりかけの症状を聞いたりすると、早めに子どもさんたちに連絡を入れてもらうようにもして、みんなで連携することが大切だと、切に思えてきた今日この頃です。

80代90代の人たちだけでなく、島では若手と言われる60代・・・そう自分たちの世代でも同じような会話が、良いか悪いか弾むようになりました。どうやら還暦を迎えたあたりの身体の不調は、共通するものがあるらしく、「そうそう」と同調することが多くなったのです。病氣自慢とまでは言いませんが、自分の不調と相手の不調が似ていたり、かつて通り過ぎた状態だったりすると、お互いホッとしたりして、くにひろストアが、なんだか健康相談所のようにも思えてきたのです。健康状況がわかる方が、料理するこちらとしても気遣える部分もありますし、言いづらいことでも話せる場があるのは、心の健康を保つためにも必要な場なのかもと思うようになりました。もちろん素人考えではなく、病院での検査をすすめたり、お互いの病院の情報交換もできるので、ありがたい場ともなっています。

さて、師走の声を聞くと、やはり何とはなしに気忙しくなってくる12月半ば。お飾り餅や注連縄の注文を受けつつ、今年もお節の注文を受けようかねえ、と店内に『注文承ります』のチラシを貼ると、あっという間に予定数に達し、締め切りとなって、さっさとチラシを剥がすことに・・・自分にできることで喜んで

いただけるのは、本当に嬉しいこと、ありがたいことです。

おかず作りの今年の最終日は、たまたまクリスマスとなったので、何気にチキンカツを多



さぶい！さぶい！
クリスマス寒波の中を配達

めに詰め込みました。まあ、祝島ではクリスマスだからどう、みたいな家はほとんどなく、気づいた人はほとんどいなかったと思うのですが。今季のクリスマスは、全国的に冷え込み、ホワイトクリスマスを喜ぶどころではなく、大雪が災害に繋がってしまった地域も多くあったようでした。祝島では、寒かったり、雨だったり、もちろん雪だったりすると、みな家から出ないので、くにひろストアは閉古島・・・ただ、どんなに寒くても、配達人は今日もゆく！と吹雪の中、店主は配達して回ってくれたのでした。感謝です！

さて、惣菜部最後の大事な仕事であるお節づくり。昨年までの容器が廃版となったので、新しい容器に詰める献立を考え、大晦日までの買い出しから料理までの手順を抜けないように手作りカレンダーに書き込む作業・・・楽しくもあり、忙しくもあり。それでもみんなが楽しみにお正月を迎えてくれるならと一年の締めくくりの大仕事、頑張りました。年々、

手際のよい助手となってくれるとっても頼もしい店主に感謝しつつ、なんとか無事にお節づくりを終え、今年一年を締めくくりました。



今年のお節料理はこんな感じです

2023年の年明けは6日から開店。初日は、ちょっとお正月気分のメニューのおかず。いただきもののおめでたい「鯛焼き」を先着順15名に配り、「今年もよろしくお願いします」と、お客さんの笑顔をいただきました。幸先の良いスタートが切れました。兎年らしく、『力をためて、ジャンプ！』お客さんも、店主も、わたしも、笑顔で皺が増えるような、笑い声で賑やかな、元気な一年になりますように。

山田イサオ写真館(21) 『たみちゃん』

山田 イサオ

このコーナーでは、写真家で祝島ネット21会員の山田イサオさんの写真を毎回1枚紹介しています。

山田イサオさんはモノクロ写真にこだわり、祝島では人物を中心に撮影をされています。

『たみちゃん』

たみちゃんは島でただ1人の女漁師で、島では1番人気の有名人。

そして、芸達者でいつも盛り上げ役です。

また、人間味が有り、写真をあげれば、島の特産物ひじき、枇杷、サザエ他たくさんいただきました。

ちょっと褒めすぎたかな（笑）。

撮影日：不明



新型コロナの感染拡大により、2020年春より祝島への来島自粛が続きました。祝島の関係者の方々も大切な故郷と思うからこそ帰れない、帰らせない、そう思って我慢してこられたと思います。祝島出身者の方々、また島で暮らす方々にとっても、とても寂しい3年間でした。2021年11月10日から2か月間だけ、出身者のみ帰島OKと自粛が一時的に緩和された時も、島に帰られる理由は、法事や納骨、家の修理、そして年老いた親御さんに会うため・・・と、どなたもやんごとなき理由があつての帰省だったように思います。思えば、このコロナ禍、お葬式だけは待たなし・・・入院中の面会もままならず、身内だけでひっそりと見送りを済ませ、お骨を島に持ち帰ることさえ憚られたと聞きます。どんなにか寂しく辛い思いをされたかと、心中お察しするに余りあるものがありました。

2022年11月、待ちに待った自粛緩和により、少しずつ出身者の帰省される姿が見られるようになり、今年のお正月は、以前ほどではないにしても賑わいがあり、ホッとしたものです。港に船が着いて、降りてこられる方々を迎える島のおじちゃんおばちゃんの嬉しそうな顔を見ると、「やっど！」という思いがこみ上げてきて、嬉しくて涙が出そうになりました。いつもは空家になっている家から、話し声が聞こえたり、テレビの音が響いたり、魚を焼いたり、煮物の匂いがするような些細なことでも活気を感じられるのです。道を歩いていても、普段は誰も通ってないことが多かった今、懐かしい顔、見知った顔を見かけて何気ない挨拶を交わすだけで、笑顔になって気持ちが和むのは、きっと私だけではないでしょう。



コロナ禍以前、お盆の帰省客を迎える港の賑わい

2022年度 年間行事予定表		
戦没者追悼式	4月3日(日)	午前11時から
海岸清掃	7月17日(日)	午前7時から
盆山組み立て	8月13日(土)	午前7時から
盆山解体	8月16日(火)	午前7時から
敬老会	9月19日(月)	午前11時から
道こしらえ	10月23日(日)	午前7時から
(粗大ごみ積み込み6月) 祝島自治会		

自治会行事の「海岸清掃」と「道こしらえ」の時に帰省して手伝っていただくと助かります

出身者の方々に提案したいことがあります。それぞれ今の生活が忙しいとは存じますが、今一度、祝島へ帰ってくる回数を増やしてみることはできないでしょうか？もし、自分の家に畑があるなら、畳1枚分の畑からでも始めてみませんか？少し広い土地があるなら、びわの木1本でも植えて世話をしてみませんか？種を蒔くことで、野菜が育ったり、花が咲いたりするのを見に帰る楽しみがあります。釣りが好きなら釣りをしに、山遊びが好きなら山歩きに。海岸の道端から山まで、草刈りをしてほしい場所はいくらでもあります。

室津まで車で帰って来られる方々の、島での過ごし方にはいろんなパターンがあるようです。月に数度帰り、数日泊まっては、びわの世話をしたり、野菜を作ったり、釣りを楽しんだりして、自分のペースで過ごされているようです。そして釣った魚や野菜を家族に持ち帰られています。また、びわやみかんの作業が必要な時期になると、島に住んで作業され、家族や親せきに産物を送っておられる方や、自宅を住みやすく手直ししながら、合間に他所の草刈りに精を出してくださる奇特な方もおられます。まだ仕事を持っていらっしゃる若い方の中には、週末、マメに親御さんの顔を見に帰られる方もおられます。年に一度、10月の道こしらえの時には、期日が決まっていることもあって、わりあい多くの方が帰って来て手伝ってくださっています。島の年寄りにとっては、この若手の力と賑わいがどんなにか心強く、嬉しく思うことか。何かしら目的があれば、島に帰ってくる回数が増えると思うのです。1年に一度、数年に一度ではなく、四季折々の風景を見て

は、これからのことを考えるのも楽しいと思われませんか？

祝島の同級生という繋がりは、兄弟にも勝る・・・そんなふうに感じています。島で暮らす同級生に声を掛けてみませんか？ 島に帰る予定がある時は、「一緒に帰ろうや」と、同級生を誘ってもいいし、家族で帰られるならば何よりです。いつ帰ってもいいように、自宅には少し手を入れておくこともお奨めします。自宅があっても掃除しなければ泊まれない時は片付ける間だけとか、自宅をすでに解いてし

まわれた方などは、数日、宿を利用されることも少なくありません。島の宿は、観光客のためだけにあるのではないのです。島に帰って来られる方々のお役に立てれば嬉しく思います。

「祝島が懐かしい」と思われた時は、いつでも帰ってきてください。島に帰って話をすることで活路が見いだせることもあるやもしれません。いろんな方のいろんな想いを活かしたらいいなあと、祝島の未来を想像する今日この頃です。

読書タイム(2) 『あの日、指きり』

(絵: 田頭よしたか)

祝島ネット21会員の皆さんが出版された本を紹介するコーナー。2回目は、絵本作家の田頭よしたかさんが絵を描かれた絵本『あの日、指きり』を、自筆の原稿にて紹介していただきます。

『あの日、指きり』

(那須正幹 作、田頭よしたか 絵)

「あの日、指きり」

絵本作家
田頭よしたか

祝島市中央の小さな港町に生まれました。
海のおくそばに、昔は主に芝居小屋だった
映画館があり、中央座と云いました。私の幼
な頃は日本映画全盛で、週変わりごと本立
る本立の上映があり、映画館のドアが締まら
ないほどの連日超満員。父親の肩車が観た賞
えがあります。
その映画館を中心に、チャンバラゴッコな
どの思い出で、児童文学作家の那須正幹さん
にお話しして出来上がったのが、「あの日、指き
り」です。「児童文学でストーリーがなくて
話とは他に無いじゃろー」と那須さんは笑
ってました。読んでみて下さい。



田頭よしたかさん



『あの日、指きり』
作：那須正幹
絵：田頭よしたか
出版社：草炎社
発行：2006年8月

お知らせ & 募集

■「2023年版 祝島カレンダー」を製作しました

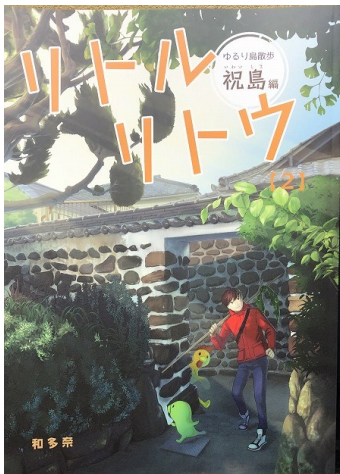
毎年恒例の「祝島カレンダー」(2023年版)を製作しました。昨年10月末には入荷し、すでに会員の皆様の所にも届いて、ご利用されていると思います。祝島でも各家庭に無料配布させていただき、喜んでいただいております。また、「アイランダー2022」の参加者アンケート抽選プレゼント用として10部提供させていただきました。

まだ多少在庫が残っていますので、必要な方は事務局までご連絡ください。



2023年版 祝島カレンダー

■島旅漫画『リトルリトウ (祝島編)』のご紹介



日本の離島が好きで、『リトルリトウ』という島旅漫画のシリーズを描いている和奈さん(ペンネーム)。その第1作と第2作を、昨年11月に東京ビッグサイトで開催されたイベント「COMITIA142」(自主制作漫画誌展示即売会)で展示販売されました。1作目は光市の牛島、そして2作目が祝島です。祝島にやって来た主人公が練塀のまち並みや平さんの棚田を始め、島のいろいろな場所を巡っていくあらすじで、祝島の風景をととても丁寧に描かれた漫画がととても印象的です。もしかしたら、あなたの家も描かれているかも・・・。

この『リトルリトウ (祝島編)』を、20冊ほど注文しています。一般の書店では販売されておらず、作者への直接注文になります。会員の皆様で、欲しい方は事務局までご連絡ください。入荷は2月頃になる予定です。1冊500円+送料です。

←『リトルリトウ (祝島編)』の表紙です

編集後記

数年に一度の大寒波襲来で、全国的に猛烈な寒気に包まれる中、家に籠って会報の編集作業を行いました。会員の皆さんの所は、大雪などの被害を受けておられませんでしょうか？祝島も寒かったのですが、雪はほとんど降らず、海に囲まれているせいか、もともと本土ほど冷え込まないので、今回の大寒波でも定期船がシケのために一日欠航した程度で、生活に大きな影響は受けませんでした。でも、もしかしたら農産物への被害はあるかもしれません・・・。

さて、コロナがなかなか収まりませんが、祝島自治会も、昨年11月から一般の方への来島自粛要請を解除いたしました。釣人の皆さんは、「待ってました」と、押し寄せて来ています。観光で来られるお客さんは、寒い時期なので、ポチポチといったところです。ほとんど休業状態だった民宿にも、毎週末にはお客さんが入るようになり、徐々に忙しくなっています。今回の「記憶の玉手箱」には、久しぶりに島に帰って来られて、民宿に泊まられたお客さんに登場していただきました。お話が面白くて、1回では入りきらなかったのが、次回も続きを掲載しようと思っています。次号の発行は5月頃を予定しています。どうぞお楽しみに！

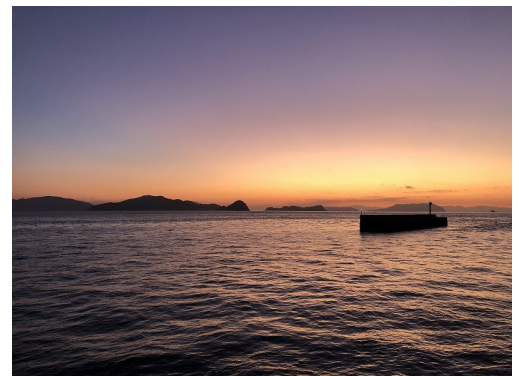
(編集長：國弘秀人)

※事務局では会員の皆さんからの投稿をお待ちしております。投稿はホームページからも

可能になっておりますので、ご意見・ご感想など、お気軽に投稿してください。

※祝島ネット21では随時会員を募集しています。会費は1年間6000円です。

入会ご希望の方は事務局までご連絡ください。



夜明けの海

祝島ネット21会報「いわいしま通信」第69号

発行日：2023年1月26日 (頒価400円)

発行者：祝島ネット21事務局

〒742-1401 山口県熊毛郡上関町祝島

ホームページ <http://www.iwaishima.jp/inet21/>